

第1学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「くらべて よもう」 教材名「どうぶつの 赤ちゃん」

2 単元の目標

赤ちゃんの様子を同じ観点で比べ、共通することと違うこととの関係を理解できる。動物の赤ちゃんについて読んだことと見聞きした経験を結び付けて感想をもち、友達と伝え合える。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①赤ちゃんの様子を同じ観点で比べ、共通することと違うこととの関係を理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア）	①「読むこと」において、動物の赤ちゃんについて読んだことと見聞きした経験を結び付けて感想をもち、友達と伝え合っている。（C(1)オ・C(1)カ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

動物の赤ちゃんを、同じ観点で比べて読む。姿についての説明と育ち方についての説明を混ぜず、似ているところと違うところを見付けたうえで、見聞きした経験と結び付けて感想を伝える。学習指導要領のC(1)オ・C(1)カを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(2)アを、言語活動の中で確かめる。

(2) 児童について

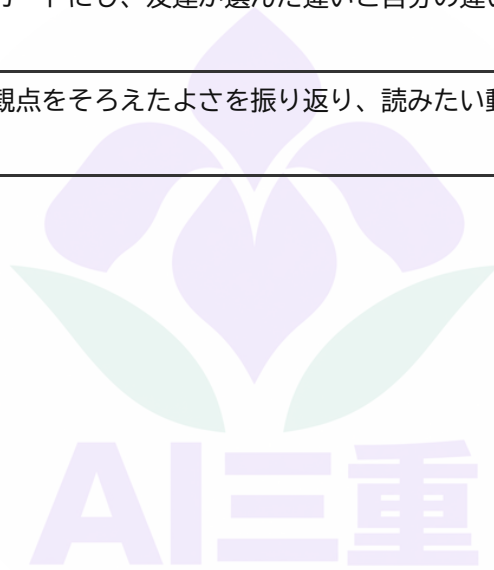
(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

「生まれたころ」「育っていくころ」の見出しを教師と確かめる。本文で確かめた動物名を各列に置き、同じ行だけを示して話させる。経験がない児童は読み聞かせや図鑑で見たことと比べてよい。おおむね満足できる状況は、動物の赤ちゃんについて読んだことと見聞きした経験を結び付けて感想をもち、友達と伝え合っているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全10時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○題名から知りたいことを話し、全文の読み聞かせを聞く。	学習状況を見て支援する。
第2次	2～3	○本文に出てくる動物ごとに、生まれたころの様子を確かめる。	知①（語句や内容の整理）
	4～5	○育っていく様子を読む。時を表す言葉を手がかりに説明を並べる。	学習状況を見て支援する。
	6	○同じ観点をそろえ、動物ごとの説明を比べる表を作る。	学習状況を見て支援する。
	7 （本時）	○比べて確かめたことを、見聞きした経験と結び付けて話す。	思①（発言・学習記録）
	8～9	○話したことをカードにし、友達が選んだ違いと自分の違いを読み合う。	学習状況を見て支援する。
第3次	10	○比べるときに観点をそろえたよさを振り返り、読みたい動物の本を選ぶ。	態①（学習前後の記録・振り返り）



6 本時の指導 (7/10)

(1) 本時の目標

動物の赤ちゃんについて読んだことと見聞きした経験を結び付けて感想をもち、友達と伝え合える。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「同じことを比べると、赤ちゃんのどんな違いが分かりますか。自分が見た赤ちゃんと比べてどう思いましたか」 【めあて】動物の赤ちゃんを、同じ観点で比べて読む。 〈予想される児童の反応〉 ・生まれたときの様子をそろえて比べると違いが分かる。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「同じことを比べると、赤ちゃんのどんな違いが分かりますか。自分が見た赤ちゃんと比べてどう思いましたか」自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・生まれたときの様子をそろえて比べると違いが分かる。 ・育ち方については別に比べたい。 ・自分が見た動物の赤ちゃんとは違って驚いた。	「生まれたころ」「育っていくころ」の見出しを教師と確かめる。本文で確かめた動物名を各列に置き、同じ行だけを示して話させる。経験がない児童は読み聞かせや図鑑で見たことと比べてよい。 想定する難しさ：片方は生まれた直後、もう片方は成長後を比べてしまう。かわいいという感想だけになり、本文と結び付かない。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 動物の赤ちゃんについて読んだことと見聞きした経験を結び付けて感想をもち、友達と伝え合っている。(発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・自分が見た動物の赤ちゃんとは違って驚いた。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「同じことを比べると、赤ちゃんのどんな違いが分かりますか。自分が見た赤ちゃんと比べてどう思いましたか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

